

2番 畠山和英です。令和2年第1回岩泉町議会定例会に当たり、今後の町政運営の一端について一般質問を行います。

中居町政が誕生して2年の歳月が過ぎました。2020年度は、中居町政の折り返しであり、新しい総合計画「未来づくりプラン」がスタートします。この計画は、人口減少に歯止めをかける新しい「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を組み込んだものとなっています。

これまでの間、中居町長は、逸早く副町長を2人体制とし、危機管理監を設置するなどトップマネジメント、リスクマネジメントの強化を図り、職員力・組織力の向上に取り組むとともに、町の最重要課題である台風災害からの復旧・復興に全力で当たってきました。

道路等公共土木施設災害復旧は概ね完成の目処がたち、災害公営住宅への入居、移転地の分譲が完了するなど復旧・復興が図られてきています。残る、ふれあいらんど岩泉の被災施設の再建、ミート工房や林道など復旧・復興の完遂に向け、より町民に寄り添った取り組みを期待するものであり

ます。

また、これらの復旧事業を推進する一方で、今触れました町の最上位計画である新しい総合計画を策定したほか、子育て支援、高校生への給食提供、定住型奨学金制度、鳥獣被害対策の強化などキラリと光るソフト施策、制度設計に取り組むなど評価するものであります。

さて、初めに、中居町政の任期の折り返しに当たり、これまでの町政運営についてどう点検、総括し、その課題と成果を未来づくりプランにどう繋げていこうとしているのか伺います。

また、副町長2人体制を実施しているところですが、町長、副町長のトップマネジメントが具体的にどう発揮されてきたのか。未来づくりプランのスタートとなる来年度から町長等のトップマネジメントはどのようにするのか伺います。

次に、未来づくりプランの推進について伺います。

私は、先の一般質問で、次期総合計画の策定にあたっては「現状認識の把握とともに、課題を解決するアイデア、プロ

セスを示すものでありたい・・・」と申し述べました。

未来づくりプランで、6つの重点プロジェクトを掲げていますが、それらを達成するための具体的なプロセスが示されていないのでよく伝わってきません。

特にも、地方創生に資する施策と思われる「居住環境の整備」、「関係人口の拡大」、「産業の強化による働く環境の充実」をどう推進していこうとしているのか。重点プロジェクトごとに施策、事業を示して実施すべきではありますが、具体的な展開方策を伺います。

2点目は、現総合戦略で人口の社会増減を2020年にゼロとする計画を、未来づくりプランでは2025年にゼロにする、と先送りしています。2025年以降に社会増減をゼロとするために各般の施策を講じていくとされていますが、どのようにして達成していこうと考えているのか伺います。

3点目は、未来づくりプランを推進するための国の補助事業の導入であります。自主財源に乏しく財政基盤が脆弱な本町にあっては、この計画を実行するため国の補助事業の導入をはじめ、財源の確保が欠かせません。内閣府では、

地方創生関連交付金の制度が生まれ、関係省庁においても様々な支援メニューが示されています。

予め取り込もうとする事業計画の企画、内容を作成準備し、アンテナを高く張って、国の事業公募が開始されたら手を上げる、そんな意気込みが望まれます。例えば、単に、過疎債、特別地方交付税があるからそれでやればいいとの考えでは実施する事業数は限られますし、未来づくりプランの実効性が問われます。

国の補助・交付金事業の導入に積極果敢に挑戦し、財源を確保すべきではありますが、予定事業を含め取り組む考えがあるか伺います。

次に、日本短角牛の生産振興について伺います。

先ほど触れました、未来づくりプランの重点プロジェクトに挙げる「産業の強化による働く環境の充実」の具体的事業の一つとして、日本短角牛の生産振興を掲げ事業推進を図るべきであると考えます。

日本短角牛は、本町が発祥の地で、いにしえから夏山冬里方式により飼養されている主産地として形成され発展して

きました。現在は、釜津田、安家、大川の3つの肉牛生産組合が11放牧地を管理運営しています。

近年、畜産、国産牛肉を取り巻く情勢は、日欧EPAと環太平洋戦略的経済連携協定（TPP11）に続く、日米貿易協定など関税の自由化によりますます厳しくなることが予測されています。また、生産者の高齢化や後継者不足により組合員数、飼養頭数の減少は深刻な問題となっています。

このような中、本町における日本短角牛を巡る生産環境は、「老朽化する放牧地・施設の改修」、「繁殖素牛の導入による放牧頭数の維持拡大」、「冬期に、繁殖牛を共同管理するキャトルセンターの整備」、「牛肉加工販売施設のミート工場の再建」、「交流イベントの再開」等々課題は山積しています。

生産者、生産組合は、先を見据えて、今、これらの振興対策や投資を怠らないと10年後がないと、危機感を抱いています。

町では、3つの肉牛生産組合から要望を受けて、新規事業として「放牧頭数維持支援補助金」を予算計上するなど取り組みを評価するものではありますが、短角牛生産振興対策は、

先ほど述べましたように飼養頭数の維持拡大から短角牛肉の消費販売まで多岐にわたります。また、緊急に講じなければならないものや、中長期的に取り組むものなど計画的に推進していかなければなりません。

そこで、「岩泉短角牛」ブランドを確立し、地域の振興発展を図るために、来年度早々に「岩泉町短角牛生産振興計画」を策定し、計画的に整備を進め振興策を展開していくべきであります。計画策定にあたっては、関係機関・関係者等をメンバーとし、キャトルセンター、ミート工房の整備に向けた調査研究や、整備財源を確保する場にもなると考えます。また、台風災害で中断している消費者との交流、短角牛をアピールする町の活性化イベントの開催が求められます。町長の所見を伺います。

2番 畠山 和英 議員の御質問にお答えします。

はじめに、これまでの町政運営を踏まえた今後のまちづくりについてであります。まずは台風災害から緑豊かなふるさと岩泉町を取り戻すことを最優先課題として、復旧復興事業を推し進めてまいりました。

また、危機管理部局の体制強化や本町産業振興の要でもあります第三セクターの一部合併など、喫緊の課題につきましても、復旧復興事業と並行して取り進めてきたところでもあります。

ここにきて、その道程も見えてきましたことから、今後はこれまでの復旧復興の取組を足掛かりに、災害に強いまちづくりを進めるとともに「未来づくりプラン」における、総合的な人口減少対策を始め、新たな

行政課題により一層、力を入れてまいりたいと存じます。

特にも産業振興そして居住環境の整備等が大きな課題としてありますので、これらの施策推進に重点的に取り組んでまいりたいと考えております。

また、トップマネジメントについてですが、私は、着任時から「ボトムアップ」での政策形成を進めてきてまいりました。

職員自らがそれぞれの課題を共有し、様々な視点で解決策を検討し、事業の具現化に取り組む中で、両副町長からは、その推進役としての役割を担っていただいております。

また、台風災害からの復旧・復興事業は、東日本大震災の経験から、まさに時間との闘いであり、国、県等のパイプを兼ね備えた両副町長には、両輪となって

東奔西走して頂いたところで、その成果は、着実に復旧事業の原動力になっているものと認識しております。

「未来づくりプラン」のスタートである来年度以降におきましても、全職員で課題を共有しマンパワーを十分に発揮できる体制を構築しながら、町民の福祉の向上のため「ワンチーム」となり、一つ一つ目の前の課題にチャレンジし、目的、目標の達成に向かってまい進してまいります。

次に、重点プロジェクトの具体的な展開方策であります。基本計画における部門別振興計画や実施計画において位置付けている事業のうち、居住環境の整備においては、町営住宅入居要件の緩和などの制度の見直し、関係人口の拡大に向けましては、龍泉洞園地再整備事業による受け入れ態勢の構築など、そして、働く環境の充実では各産業における担い手対策や生産振興対策などの取組を、重点プロジェクトにおける実施

事業として位置付け、重点的、戦略的に推進することとしております。

また、当該プランにおいて目標設定しております
2025年以降の人口の社会減をゼロとするための各
般の施策につきましては、まさに議員御指摘の「魅力
ある居住環境の整備」を始めとする6つの重点プロジ
ェクトを中心とした、総合的な取組が肝要であると認
識をしているところであります。

このためにも、「国の補助・交付金事業の導入に積
極果敢に挑戦し、財源を確保すべき」との議員の御指
摘のとおり、国・県の制度上有利な財源を余すところ
なく活用できるよう、地方創生交付金事業などの様々
な要件を勘案しながら、調査検討を進めてまいりたい
と存じます。

次に、短角牛の生産振興についてであります
が、令和元年6月定例会で、ミート工房再建の御質問をい

ただき、短角牛生産の再構築の考え方について述べましたが、「繁殖農家と肥育農家との連携による素牛価格の安定化」、「魅力ある牛肉づくり」、「生産者の積極的な販路開拓の参加」の3点が重要であると認識しており、新年度においては、各生産組合の飼養頭数を維持拡大していくため、家畜導入及び自家保留に対する支援を実施することとしております。

議員からの中長期的な展望を見据えた「岩泉町短角牛生産振興計画」策定の御提案につきましては、「岩泉町酪農・肉用牛生産近代化計画」を、短角牛を含めた総合的な計画として位置付けておりますので、その中で短角牛の振興策も進めてまいりたいと考えております。

また、その他の品種であっても、いずれ計画的に実施事業を組み立てていく必要がありますことから、「未来づくりプラン」のローリングにおいて適時適切な施策を進めてまいりたいと考えております。

中長期的な実施事業につきましては、畜産クラスター事業等の支援制度の導入も含め、関係機関や団体、短角牛に関わる皆様と、さらなる検討を重ねてまいります。

最後に、短角牛をピーアールするイベントの開催につきましては、生産者等が実施するイベントに対し積極的に応援してまいりたいと考えております。

以上で答弁を終わります。